

II 情報交換推進事業

II 情報交換推進事業

1 実施機関及び担当者

高知県水産試験場			
漁業資源課長	田ノ本	明彦	
チーフ	明神	寿彦	
主任研究員	浦	吉徳	
〃	山本	順	
〃	林	芳弘	
〃	大河	俊之	
〃	梶	達也	

2 対象海域及び漁業種類

高知県地先沿岸及び沖合域におけるイワシ・アジ・サバ・カツオ等を対象とする漁業

3 実施期間

平成22年4月1日～平成23年3月31日

4 情報収集

漁協、漁業指導所、漁業情報サービスセンター、漁業無線局（漁船、調査船）、及びその他関係機関から電話、ファックス、郵便、現地調査により情報を収集した。

5 広報の方法

新聞、ファックス、郵便により漁業者、漁協、漁業指導所、漁業情報サービスセンター及びその他関係機関に広報した。同時に高知県漁海況ホームページに掲載した。漁海況速報発行状況は表1に示した。

なお、平成22年下半年（8～12月）の漁海況予報、平成23年上半年（1～6月）の漁海況予報は資料1、2のとおり。

また主要魚種、主要漁業種類別漁獲統計、調査地はⅢ主要魚種・主要漁業漁獲統計に示した。

表1 漁海況速報発行状況

発行年月	広報回数	備考	
22年 4月	4	8月 平成22年下半年（8～12月）漁海況予報 （資料1）	
5月	3		
6月	5		
7月	4		
8月	5		
9月	4		
10月	4		
11月	5		
12月	4		
23年 1月	4		1月 平成23年上半年（1～6月）漁海況予報 （資料2）
2月	4		
3月	5		
計	51		

(資料1)

高知県長期漁海況予報(要約版)

平成22年下半期(8～12月)の漁況・海況の予想

平成22年8月発行 高知県水産試験場

このたび、平成22年8月から12月を予測期間とした「平成22年度第1回太平洋イワシ・アジ・サバ等長期漁況海況予報会議」が横浜市で開催されました。独立行政法人水産総合研究センター、高知県及び関係都道県等の最新の調査結果から長期予報が作成されましたので、高知県関係を中心にその概要をお知らせします。

海 況

【海況の経過 (平成22年4月～7月)】

1 黒潮

足摺沖では、4月上旬から6月上旬まで「接岸」傾向が継続していましたが、6月中旬に一時的に「やや離岸」した後は、「接岸」傾向となっています。

室戸岬では、足摺岬と同様に、4月上旬から6月上旬まで「接岸」傾向が継続していましたが、6月上旬から急速に離岸傾向に転じました。その後は、7月下旬頃から「接岸」傾向となっています。

以上のように、高知県沖における今期の黒潮は小規模な変動を示しつつ接岸～やや離岸で推移しました。

2 沿岸水温

沿岸定線調査による土佐湾沿岸域の水温は、表層で「平年並み」から「かなり高め」、中層で「平年並み」から「やや高め」、下層で「やや低め」から「やや高め」でした。4月は、0m層において「やや高め」、50m及び100m層において「平年並み」、200m層において「やや低め」でした。5月は全層で「平年並み」でした。6月は0m層で「平年並み」、50m及び100m層において「やや高め」、200m層において「かなり高め」でした。

3 特異現象

海況

- ・定地観測において、伊佐の6月の表面水温が過去最低の水温を記録した(1966年以降)。

漁況

- ・県東部の大型定置網におけるブリ(7kg級)が前年に引き続き、好漁であった(平年比582%)。
- ・カタクチイワシが好漁。宿毛湾の中型まき網(平年比259%)、県東部の大型定置網(平年比866%)。
- ・マアジが不漁。宿毛湾の中型まき網(平年比28%)、県東部の大型定置網(平年比12%)。
- ・機船船びき網によるシラス漁が好漁(平年比147%)。
- ・土佐清水の立縄漁でマサバ好漁(平年比737%)。

【今後の見通し(平成22年8～12月)】

1 黒潮

流型：潮岬以東の黒潮は、期間を通してN型流路で推移し、小蛇行の東進に伴い、8月、10～11月にB・C型流路となる見込みです。

四国沖の黒潮：黒潮は、都井岬沖では8月に小蛇行が形成され離岸傾向となる見込みです。足摺岬沖～潮岬沖では、接岸傾向となりますが、都井岬沖の小蛇行が9～10月に四国沖を東進するのに伴い離岸し、その後は接岸傾向となる見込みです。

(根拠)

人工衛星による日本南方海域の海面高度データを利用した小蛇行の形成・発達・東進の予測手法によっています。

2 沿岸の水温

「平年並み」から「高め」で推移する見込みです。

(根拠)

- ・高松地方气象台発表の「四国地方3か月予報」（6月24日発表、予報期間7～9月）によると、期間中の平均気温は「高い」か「平年並み」となっています。
- ・近年、土佐湾の表面水温は高め傾向で推移しています。

漁 況

I サバ類（ゴマサバ及びマサバ）

【漁況経過（平成22年4～6月）】

1 高知県

- (1) 宿毛湾の中型まき網による漁獲量は1,862.7トン（以下、漁獲量は期間中の合計を示します）で、前年比993%、平年比130%（以下、平年とは平成11年から平成20年の10年間の平均値を示します）でした。漁獲物の体長測定結果によると、漁獲の主体は尾叉長25～28cmのゴマサバでした。
- (2) 定置網（窪津・椎名2水揚地合計）による漁獲量は45.1トンで、前年比66%、平年比44%でした。漁獲物の測定並びに県東部の定置網入網調査等の結果によると、漁獲の主体はゴマサバでした。
- (3) 釣（立縄・多鈎釣等、土佐清水・加領郷・室戸・甲浦4水揚地合計）による漁獲量は221.1トンで、前年比52%、平年比66%でした。魚体測定の結果、漁獲のほとんどはゴマサバで、前年同様3歳魚（平成19年生まれ）以上が主体でした。

2 周辺各県の経過

宮崎県：日向灘のまき網による1～6月の総漁獲量は、ゴマサバ主体に7,777トンで、前年比212%、平年比143%でした。

愛媛県：豊後水道のまき網では南部海域を中心に漁場が形成され、4～6月の総漁獲量は1,048トンで前年比453%、平年比85%でした。

和歌山県：紀伊水道外域の2そうまき網による2～6月の総漁獲量はゴマサバ主体に1,148トンで、前年比91%、平年比76%でした。

【漁況予測（平成22年8～12月）】

- (1) 漁獲対象：1歳魚（平成21年生まれ）、2歳魚（平成20年生まれ）、3歳魚（平成19年生まれ）
- (2) 来遊水準：
 - ・ゴマサバ：1歳魚は前年を上回るが、2歳魚以上は小規模な来遊は見込まれますが、前年並みか、下回ります。全体の来遊量としては上回ると考えられます。
 - ・マサバ：全体として低水準ですが、来遊量は前年並みか上回る見込みです。

(参考) 前年 (平成 21 年) 8～12 月のサバ類漁獲量

宿毛湾の中型まき網 : 1,073 トン

定置網 (窪津・椎名合計) : 28 トン

釣 (立縄・多鈎釣等、清水・加領郷・室戸・甲浦 4 水揚地合計) : 400 トン

説明 :

ゴマサバ : ゴマサバ太平洋系群の資源量は、0 歳魚 (平成 22 年生まれ) と 1 歳魚 (平成 21 年生まれ) が多いと推定されています。高知県の釣や定置網の漁獲量は前年を下回りながら推移していますが、県西部では 1 歳魚の大きな来遊が認められていることから、前年を上回ると考えられます。

マサバ : マサバ太平洋系群の包括的な資源量調査の結果、平成 22 年のマサバ資源は 1 歳魚 (平成 21 年生まれ)、3 歳魚 (平成 19 年生まれ) が主体で前年を上回ると推定されています。ここでの漁況予測は、このことを中心に、高知県の漁況情報を加味して、作成しました。

II マアジ

【漁況経過 (平成 22 年 4～6 月)】

1 高知県

(1) 宿毛湾の中型まき網による漁獲量は 27.6 トンで、前年比 16%、平年比 9% でした。銘柄別では、150g 以上の「アジ」が 27.4 トンで、前年比 23%、平年比 20% でした。150g 未満の銘柄「ゼンゴ」は 0.1 トンで、前年比 0.3%、平年比 0.1% でした。漁獲物の体長測定結果等によると、1 歳魚以上を主体に漁獲していたと思われま

(2) 定置網 (窪津・椎名 2 水揚地合計) による漁獲量は 34.1 トンで、前年比 12%、平年比 15% でした。

2 周辺各県の経過

宮崎県 : 日向灘のまき網による 1～6 月の総漁獲量は 211 トンで、前年比 40%、平年比 24% でした。

愛媛県 : 豊後水道では中部海域を主体に漁場が形成され、4～6 月の総漁獲量は 366 トンで、前年比 58%、平年比 25% でした。

和歌山県 : 紀伊水道外域 2 そうまき網による 1～6 月の漁獲量は 282.4 トンで、前年比 31%、平年比 19% でした。

【漁況予測 (平成 22 年 8～12 月)】

(1) 漁獲対象 : 0 歳魚 (平成 22 年生まれ) と 1 歳魚 (平成 21 年生まれ) 主体。

(2) 来遊水準 : 前年を下回ると考えられます。

(参考) 前年 (平成 21 年) 8～12 月のマアジ漁獲量

宿毛湾の中型まき網 : 261 トン

定置網 (窪津・椎名合計) : 29 トン

説明 :

マアジ太平洋系群の資源水準は「中位」、動向は「減少」と評価されています。予測期間中は 0 歳魚 (平成 22 年生まれ) が主な漁獲対象となります。この 0 歳魚は、高知県海域をはじめ、西日本の各地でおおむね低い来遊水準にあると考えられることから、本年下半期の来遊水準は前年並みから下回ると推定されます。

III マイワシ

【漁況経過 (平成 22 年 4～6 月)】

1 高知県

- (1) 宿毛湾の中型まき網による漁獲量は0トンで、前年(252.9トン)、平年(76.3トン)を下回りました。
- (2) 定置網(窪津・椎名2水揚地合計)による漁獲量は82.0トンで、前年比4,094%、平年比168%でした。漁獲物の体長測定結果によると、主体は1歳魚(平成21年生まれ)以上の大型魚でした。

2 周辺各県の経過

宮崎県：日向灘のまき網による1～6月の総漁獲量は7トンで、前年比3%、平年比1%でした。
愛媛県：豊後水道のまき網では中部に若干の魚がみられ、4～6月における総漁獲量は0.03トンで前年比0.1%、平年比0.0%でした。
和歌山県：紀伊水道外域東部から熊野灘の1そうまき網による4～6月の総漁獲量は19.2トンで、前年比43%、平年比14%でした。

【漁況予測(平成22年8～12月)】

- (1) 漁獲対象：0歳魚(平成22年生まれ)、1歳魚(平成21年生まれ)主体。
- (2) 来遊水準：前年並みの散発的な来遊と考えられます。

(参考) 前年(平成21年)8～12月のマイワシ漁獲量

宿毛湾の中型まき網：0トン

定置網(窪津・加領郷・椎名合計)：2トン

説明：

マイワシ太平洋系群の資源量は依然低水準で推移しています。本県における下半期の主な漁獲対象となる0歳魚(平成22年生まれ)は、高知県海域を含む各地で前年並みの低い来遊水準にあると考えられています。また、本年の上半期に定置網などで散発的に漁獲された1歳(平成21年生まれ)以上の魚は少なく、来遊するとしても散発的と考えられます。以上のことから、予測期間中の来遊は前年並みの水準で散発的と考えられます。

IV カタクチイワシ

【漁況経過(平成22年4～6月)】

1 高知県

- (1) 宿毛湾の中型まき網による漁獲量は1,357.0トンで、前年比168%、平年比379%でした。銘柄別では幼魚「ドロ」が149.3トンで、前年比84%、平年比126%でした。未成魚・成魚の銘柄「タレ」は1,207.7トンで、前年比192%、平年比503%でした。漁獲物の測定結果によると、体長12～13cm台の1歳魚を主体に漁獲していたと考えられます。
- (2) 定置網(窪津・椎名2水揚地合計)による漁獲は251.1トンで、前年比434%、平年比564%でした。

2 周辺各県の経過

宮崎県：日向灘のまき網による1～6月の総漁獲量は4,407トンで、前年比408%、平年比251%でした。
愛媛県：豊後水道では南部海域を中心に漁場が形成され、4～6月の総漁獲量は3,821トンで前年比154%、平年比417%でした。
和歌山県：成魚は主たる漁獲対象ではありません。

【漁況予測(平成22年8～12月)】

高知県海域では、下半期に主たる漁獲対象にならないと考えられます。

V ウルメイワシ

【漁況経過（平成22年4～6月）】

1 高知県

- (1) 宿毛湾の中型まき網による漁獲量は360.1トンで、前年比27%、平年比59%でした。体長測定から、1歳魚（平成21年生まれ）を主体に漁獲していたと考えられます。
- (2) 定置網（窪津・椎名2水揚地合計）による漁獲量は10.3トンで、前年比89%、平年比34%でした。定置網入網調査と体長測定から、1歳魚（平成21年生まれ）を主体に漁獲していたと考えられます。
- (3) 宇佐漁協の多鈎釣漁（土佐湾中央部）による漁獲量は19.7トンで、前年比864%、平年比145%でした。

2 周辺各県の経過

宮崎県：日向灘のまき網による1～6月の総漁獲量は1,063トンで、前年比38%、平年比45%でした。

愛媛県：豊後水道は南部海域を中心に漁場が形成され、まき網による4～6月の総漁獲量は471トンで、前年比60%、平年比90%でした。

和歌山県：紀伊水道外域東部から熊野灘における1そうまき網は、4～6月の総漁獲量が112.7トンで、前年比60%、平年比85%でした。

【漁況予測（平成22年8～12月）】

- (1) 漁獲対象：0歳魚（平成22年生まれ）主体。
- (2) 来遊水準：前年並から下回ると考えられます。

(参考) 前年（平成21年）8～12月のウルメイワシ漁獲量

- 宿毛湾の中型まき網：1,686トン
- 定置網（窪津・椎名合計）：15トン
- 多鈎釣漁（宇佐漁協）：22トン

説明：

ウルメイワシ資源は高水準で推移してきましたが、2010年には資源水準は中位、動向は減少傾向と評価されました。本県においては、冬季にウルメイワシのシラスが多く漁獲されましたが、その後の0歳魚（平成22年生まれ）の来遊状況は高知県、近隣県ともにおおむね悪い傾向があります。以上のことから、来遊水準は前年並みから下回ると考えられます。

VI シラス

【漁況経過（平成22年4～6月）】

1 高知県

機船船曳網（安芸地区4水揚地・春野町・錦浦・田野浦 7水揚地合計）による漁獲量は220.2トンで、前年比122%、平年比122%でした。魚種組成は、4月はカタクチイワシが主体にマイワシとウルメイワシが混じりました。

2 周辺各県の経過

宮崎県：1～6月の総漁獲量は635トンで、前年比78%、平年比49%でした。

大分県：佐伯湾における4～6月の漁獲量は8.8トンで、前年比67%、平年比11%でした。

徳島県：紀伊水道内における4～6月の漁獲量は488トンで、前年比76%でした。

(資料2)

高知県長期漁海況予報（要約版）

平成23年上半期（1～6月）の漁況・海況の予想

平成23年1月発行 高知県水産試験場

このたび、平成23年1月から6月を予測期間とした「平成22年度第2回太平洋イワシ・アジ・サバ等長期漁況海況予報会議」が横浜市で開催されました。独立行政法人水産総合研究センター、高知県及び関係都道県等の最新の調査結果から長期予報が作成されましたので、高知県関係を中心にその概要をお知らせします。

海 況

【海況の経過（平成22年8月～12月）】

1 黒潮

足摺沖では、7月上旬から8月中旬まで「接岸」傾向が継続し、8月下旬から9月上旬にかけて「やや離岸」しました。9月中旬には「かなり離岸」となりましたが、10月上旬からは「接岸」傾向となっています。その後、12月中旬より「やや離岸」傾向が継続しています。

室戸岬沖では、7月下旬から9月下旬まで「接岸」傾向が続き、その後、10月中旬に一時的に「やや離岸」となるも、10月下旬からは概ね「接岸」傾向が続いています

以上のように、高知県沖における今期の黒潮は小規模な変動を示しつつ「接岸」～「かなり離岸」で推移しました。

2 沿岸水温

沿岸定線調査による8～12月の土佐湾沿岸域の水温は、表層で「平年並み」から「著しく高め」、中層で「平年並み」から「やや高め」、下層で「平年並み」から「やや高め」でした。8月は、0m及び50m層において「平年並み」、100m及び200m層において「かなり高め」でした。9月は0m層で「著しく高め」、50m層で「やや高め」、100m及び200m層で「やや高め」でした。10月は0m及び50m層で「かなり高め」、100m及び200m層で「やや高め」でした。11月は0m及び50m層で「やや高め」、100m層で「著しく高め」、200m層で「かなり高め」でした。12月は0m及び50m層で「かなり高め」、100m層で「著しく高め」、200m層で「平年並み」でした。

3 特異現象

海況

- ・沿岸定線観測において、11月の100m層の水温が過去5番目の高水温を記録した（1975年以降、欠測年あり）。

漁況

- ・9月、沖合底びき網で、この時期に100m深より浅い海域に生息するチダイが200m深で多獲された。

【今後の見通し（平成23年1～6月）】

1 黒潮

流型：潮岬以東の黒潮は、1～3月はN型流路で推移し、4月以降にB・C型流路となる見込みです。

四国沖の黒潮：都井岬沖の小蛇行は、1月にその一部が東進、2月に再発達、3～4月

に四国沖を東進する見込みです。小蛇行形成に伴う都井岬沖野離岸傾向は3月まで継続し、その後は接岸傾向となる見込みです。足摺岬沖～潮岬沖では、接岸傾向であるが、都井岬沖の小蛇行の東進に伴い離岸し、その後は接岸傾向となる見込みです。

(根拠)

人工衛星による日本南方海域の海面高度データを利用した小蛇行の形成・発達・東進の予測手法によっています。

2 沿岸の水温

「平年並み」で推移する見込みです。

(根拠)

- ・高松地方气象台発表の「四国地方3か月予報」(12月22日発表、予報期間1～3月)によると、期間中の平均気温は「平年並み」となっています。
- ・近年、土佐湾の表面水温は高め傾向で推移しています。

漁 況

I サバ類(ゴマサバ及びマサバ)

【漁況経過(平成22年8～11月)】

1 高知県

- (1) 宿毛湾の中型まき網による漁獲量は751.7トン(以下、漁獲量は期間中の合計を示します)で、前年比90%、平年比(以下、平年とは平成11年から平成20年の10年間の平均値を示します)84%でした。まき網漁獲物の体長測定結果によると、漁獲の主体は尾叉長27～31cmのゴマサバでした。
- (2) 定置網(窪津・椎名2水揚地合計)による漁獲量は79.8トンで、前年比568%、平年比120%でした。漁獲物の体長測定並びに県東部室戸地区の2漁場(椎名、高岡)の定置網入網調査等の結果によると、主体はゴマサバでした。
- (3) 釣(立縄・多鈎釣等、土佐清水・加領郷・室戸・甲浦4水揚地合計)による漁獲量は220.0トンで、前年比69%、平年比49%でした。土佐清水を主とする魚体測定の結果、漁獲の大半はゴマサバで、前年同様3歳魚(平成19年生まれ)以上のものが大半を占めました。

2 周辺各県の経過

- 宮崎県:日向灘のまき網による8～11月の総漁獲量は、ゴマサバ主体に5,806トンで、前年比162%、平年比141%でした。
- 愛媛県:豊後水道のまき網では南部海域を中心に漁場が形成され、8～11月の総漁獲量は1,402トンで前年比76%、平年比96%でした。
- 和歌山県:紀伊水道外域の2そうまき網による7～11月の総漁獲量はゴマサバ主体に4,127トンで、前年比235%、平年比187%でした。

【漁況予測(平成23年1～6月)】

- (1) 漁獲対象:1歳魚(平成22年生まれ)、2歳魚(平成21年生まれ)、3歳魚(平成20年生まれ)
- (2) 来遊水準:
 - ・ゴマサバ:1歳魚は前年を下回り、2歳魚は前年を上回ります。3歳魚以上を含めた全体としては、前年並みと考えられます。
 - ・マサバ:1歳魚の来遊量は前年を下回り、2歳魚は前年を上回るものの、依然、低水準で推移する見込みです。

(参考) 前年(平成22年) 1～6月のサバ類漁獲量

宿毛湾の中型まき網：2,752.3トン

定置網(窪津・椎名合計)：77.9トン

釣(立縄・多鈎釣等、清水・加領郷・室戸・甲浦4水揚地合計)：545.3トン

説明：

ゴマサバ：ゴマサバ太平洋系群の平成22年の資源の水準は「高位」、動向は「減少」と評価されています。近年の生まれ年ごとの水準は、3、5、6歳魚(平成20、18、17年生まれ)が低く、1、2、4歳(平成22、21、19年生まれ)が高いと考えられています。ただし、1歳魚の推定加入量(0歳魚の発生量)は近年の平均並みで、2歳魚を下回ると予想されていることから、1歳魚の来遊量は前年を下回ると予想されました。平成22年8～11月の漁獲は概ね前年並みか平年を下回りました。しかし、2歳魚の加入量は、過去10年で2番目に多いと推定されていることから、前年並みの漁獲が見込まれると思われま

す。マサバ：マサバ太平洋系群の平成22年の資源の水準は「低位」、動向は「横ばい」と評価されています。全国的な調査の結果から、主に2歳魚の期間中の本県への来遊量は前年を上回るものと考えられますが、マサバ全体としての来遊量は、依然、低水準に推移するものと考えられます。

II マアジ

【漁況経過(平成22年8～11月)】

1 高知県

(1) 宿毛湾の中型まき網による漁獲量は234.1トンで、前年比95%、平年比49%でした。銘柄別では、150g以上の「アジ」が60.2トンで、前年比147%、平年比57%でした。150g未満の銘柄「ゼンゴ」は174.0トンで、前年比84%、平年比47%でした。体長測定から、0歳魚(平成22年生まれ)が主体であったと考えられました。

(2) 定置網(窪津・椎名2水揚地合計)による漁獲量は87.6トンで、前年比329%、平年比81%でした。

2 周辺各県の経過

宮崎県：日向灘のまき網による8～11月の総漁獲量は237トンで、前年比62%、平年比24%でした。

愛媛県：豊後水道では中・南部海域を主体に漁場が形成され、8～11月の総漁獲量は1,021トンで、前年比101%、平年比55%でした。

和歌山県：紀伊水道外域2そうまき網による7～11月の漁獲量は、395トンで、前年比44%、平年比30%でした。

【漁況予測(平成23年1～6月)】

(1) 漁獲対象：0歳魚(平成23年生まれ)、1歳魚(平成22年生まれ)主体。

(2) 来遊水準：宿毛湾、土佐湾以東ともに前年並みから上回ると考えられます。

(参考) 前年(平成22年) 1～6月のマアジ漁獲量

宿毛湾の中型まき網：114.1トン

定置網(窪津・椎名合計)：65.0トン

説明：

本県の平成22年上半期におけるマアジの来遊は低水準でしたが、下半期になって今期の主体となる1歳魚(平成22年生まれ)が来遊してきました。予測期間の後半には0歳魚(平成23年生まれ)も来遊すると考えられますが、これらはまだ生まれていないため、その水準はわかりません。以上のことから、全体として前年並みから上回る来遊と考えられます。

III マイワシ

【漁況経過（平成22年8～11月）】

1 高知県

- (1) 宿毛湾の中型まき網による漁獲量は76.6トンで、前年（0トン）を上回り、平年比11%でした。9月の魚体は体長15cm台の0歳魚でした。
- (2) 定置網（窪津・椎名2水揚地合計）による漁獲量は4.1トンで、前年230%、平年比10%でした。

2 周辺各県の経過

宮崎県：日向灘のまき網による8～11月における総漁獲量は0トンでした。

愛媛県：豊後水道のまき網では中部に若干の漁がみられ、8～11月における総漁獲量は0.6トンで前年比319%、平年比0%でした。

和歌山県：紀伊水道外域東部から熊野灘の1そうまき網による8～11月の総漁獲量は12トンで、前年比60%、平年比7%でした。

【漁況予測（平成23年1～6月）】

- (1) 漁獲対象：1歳魚（平成22年生まれ）主体で、予測期間の後半には0歳魚（平成23年生まれ）も漁獲されます。
- (2) 来遊水準：前年並みから下回ると考えられます。

（参考）前年（平成22年）1～6月のマイワシ漁獲量

宿毛湾の中型まき網：399.2トン

定置網（窪津・加領郷・椎名合計）：112.0トン

説明：

マイワシ太平洋系群の資源量は依然低水準で推移しています。本県も含めた西日本各地では、今期の漁獲主体となる1歳魚（平成22年生まれ）の来遊水準は低いと考えられます。予測期間の後半には0歳魚（平成23年生まれ）も来遊しますが、その水準は現時点では分かりません。これらのことから、散発的な来遊で前年並みから下回る来遊と考えられます。

IV カタクチイワシ

【漁況経過（平成22年8～11月）】

1 高知県

- (1) 宿毛湾の中型まき網による漁獲量は95.5トンで、前年比58%、平年比72%でした。銘柄別では幼魚「ドロ」が75.9トンで、前年比140%、平年比401%でした。未成魚・成魚の銘柄「タレ」は19.6トンで、前年比18%、平年比17%でした。
- (2) 定置網（窪津・椎名2水揚地合計）による漁獲は0.3トンで、前年比4%、平年比14%でした。

2 周辺各県の経過

宮崎県：日向灘のまき網による8～11月の総漁獲量は100トンで、前年比3%、平年比9%でした。

愛媛県：豊後水道では中部海域を中心に漁場が形成され、8～11月の総漁獲量は382トンで前年比23%、平年比31%でした。

和歌山県：成魚は主たる漁獲対象ではありません。

【漁況予測（平成23年1～6月）】

カタクチイワシ太平洋系群の資源水準は中位、動向は減少傾向にあると考えられます。高知県海域では、下半期に主要な漁獲対象にならないため、県下の漁況経過から動向を判断することが出来

ません。

(参考) 前年(平成22年)1～6月のカタクチイワシ漁獲量
宿毛湾の中型まき網：1,558.8トン
定置網(窪津・加領郷・椎名合計)：417.3トン

V ウルメイワシ

【漁況経過(平成22年8～11月)】

1 高知県

- (1) 宿毛湾の中型まき網による漁獲量は1,144.8トンで、前年比70%、平年比240%でした。体長測定から、8月以降は0歳魚(平成22年生まれ)を漁獲していたと考えられました。
- (2) 定置網(窪津・椎名2水揚地合計)の漁獲量は17.2トンで、前年比117%、平年比32%でした。体長測定から、9月は0歳魚(平成22年生まれ)を漁獲していたと考えられました。
- (3) 宇佐漁協の多鈎釣漁(土佐湾中央部)による漁獲量は2.2トンで、前年比32%、平年比16%でした。

2 周辺各県の経過

宮崎県：日向灘のまき網による8～11月の総漁獲量は1,349トンで、前年同期比43%、平年比33%でした。

愛媛県：豊後水道は南部海域を中心に漁場が形成され、まき網による8～11月の総漁獲量は551トンで、前年比29%、平年比82%でした。

和歌山県：紀伊水道外域東部から熊野灘における1そうまき網は、8～11月の総漁獲量が148トンで、前年比446%、平年比122%でした。

【漁況予測(平成23年1～6月)】

- (1) 漁獲対象：1歳魚(平成22年生まれ)主体に、期の後半には0歳魚(平成23年生まれ)も漁獲されます。
- (2) 来遊水準：前年並みから上回ると考えられます。

(参考) 前年(平成21年)1～6月のウルメイワシ漁獲量
宿毛湾の中型まき網：522.7トン
定置網(窪津・椎名合計)：11.1トン
多鈎釣漁(宇佐漁協)：73.8トン

説明：

ウルメイワシの資源状態は、近年高水準で推移してきましたが、平成22年(2010年)から中位となり、動向も減少に変わりました。本県においては、平成22年下半期の漁況経過から、今期の主体となる1歳魚(平成22年生まれ)の来遊状況は前年並みと考えられます。これらのことから、不漁であった前年並みから上回る来遊と考えられます。

VI シラス

【漁況経過(平成22年8～11月)】

1 高知県

機船船曳網(安芸地区4水揚地・春野町・錦浦・田野浦7水揚地合計)による漁獲量は137.5トンで、前年比105%、平年比120%でした。魚種組成はカタクチイワシが主体でした。

2 周辺各県の経過

大分県：佐伯湾における8～11月の漁獲量は15.7トンで、前年比112%、平年比14%でした。

徳島県：紀伊水道内における 8～11 月の漁獲量は 770 トンで、前年比 189%でした。

【漁況予測（平成 23 年 1～6 月）】

シラス漁況は不確実性が高く、特に 3 月以降の漁況を現時点で判断することは難しいことから、予測が困難です。